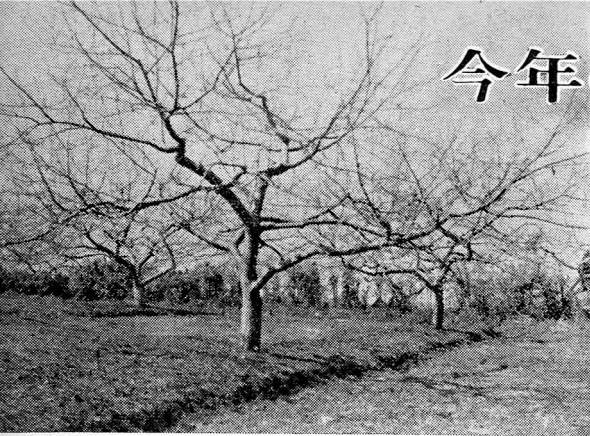


今年の果樹作業の前に



伊藤 奎太郎

寒い北海道にも雪がなくなり、五月ともなれば、皆さんのリンゴ園も芽がほころび、中旬を過ぎると蕾も色付き始めて、今年の作業も大変忙しくなつて来ます。葉刺散布も芽出し前、芽出し後から開花直前直後と順調に行なわれていることでしょう。

この時期にとくに気を付けなければならぬことは、モニリヤ病の防除です。一度この病気が発生しますと、その年の収穫を左右する被害を与えますので、十分注意して下さい。モニリヤ病について二、三申し上げますと、この病気は病状により、葉腐れ、花腐れ、実腐れ、株腐れと呼ばれているように長期にわたり発生します。とくに雪どけがおそく、かつ低温多湿の年は大発生を見ることがありますので、十分気を付けて下さい。この病気の伝染経路は、早春融雪早々越冬した病原菌から小さなキノコ状の子実体を生じ、リンゴの展葉始め頃に胞子を生じて風により飛び散つて、リンゴの若い葉に感染します。感染した葉は黄色になつて枯れ、更に進んで花叢に及び花叢全体がしおれて褐色になり、ここで更に灰白色の大型分生胞子を生じて開花中の柱頭より侵入して実を腐れ、ついで、果叢全体までを枯らしてしまう恐しい病気です。

防除法としては――

一 早春、融雪を促進し、早く地表面を乾燥させ、落葉、枯葉を掻き集めて焼却し、排水をはかることが第一です。また耕起を早めに行ない、キノコを土中に埋めてしまふことも大切です。

二 キノコの胞子の飛散を防ぐために、

リンゴの発生後から二週間くらいの間に二、三回ぐらい、一〇呎当り約四〇〇gの消石灰を丁寧に散布すること、とくに草生園、排水溝の周囲等に綿密に行なうことです。

三 葉腐れの防除には、石灰硫黄合剤(六〇〜一〇〇倍)の散布を芽出しの頃から五日毎ぐらいに行ない、感染した葉は摘み取り、焼却することです。

四 実腐れ、株腐れの防止には、人工授粉を早目に行ないます。これは、受精が完了した果実はモニリヤ菌の侵入をうけないためです。混植が最近、とくに問題になつて来たのは、結果を高めるばかりでなく、受精作用を盛んにしてモニリヤの被害を軽減するためです。勿論、被害が出たら摘み取ることは忘れてなりません。

五 常に肥培管理に気を付け、樹勢を旺盛ならしめるとともに防風林を設置し、園内の温度を高めることも大切な方法です。

以上モニリヤ病防除について、簡単に説明いたしました。次に摘果作業について述べてみましょう。

リンゴ、梨等は皆さんご承知の通り開花時の天候が良いと授精作用も旺盛で数多くの果実が出来ます。ではこれらの実をそのまま全部大きくしたらどうなるでしょう。よく家の梨は店頭に並べているのに比べて大きくならない、どうしたらあのように大きくなるのだろうか聞かれることがあります。よく見ると成つた実を全部もつたいないからといって、そのままにしている方が多いようです。

では、何故摘果をしなければならないのか。その一つの目的は、その樹体に応じて果実を適当に間引き、摘、形、色を良くして果実の商品価値を高めるためです。摘果によつて、病虫害の被害を受けた果実を取り除くことも含まれております。人によつては、摘果作業こそ果樹園の作業の総仕上げとさえ断言しております。

でしようか。

その二は、隔年結果の防止です。一般に成り年の翌年は成らないとあきらめておりますが、翌年の花芽は、前年の六月頃からすでに作られております。すなわち、翌年の収穫は前年の管理によつて決定しているわけです。適期の摘果作業は第一表の通り、翌年の花芽の形成に大変影響を及ぼしております。

第一表 パートレットの摘果時期が花芽の形成に及ぼす影響

摘果時期	一九三三年の処理		一九三四年開	
	時	期	満開後の日数	花(芽単位)
無摘果	六月一日	一	四五日	二二・五%
摘果	六月二五日	一	六〇	三七・五
同	七月一日	一	七五	三四・三
同				二一・一

では、摘果の時期はいつ頃が良いかと申しますと、リンゴでは、良く実の止まる品種の国光や印度のような花芽の分化の早いものは早く終るように、また、紅玉やデリシャス系はやや遅れても落花後三十日以内に終るようになります。札幌附近では、リンゴで六月十五日より六月末日までに、梨では、リンゴよりやや早目に行ない、六月二十五日頃までに終るようにし、またブドウの摘果(摘房といいますが)は、七月中下旬頃

に行なうようにします。時期が遅れた場合、強めに摘果することが大切です。最近では、開花の非常に多い年は、摘果をする前に摘花（花摘み）を一通り行なうようにさえなつて来ました。また更に摘蕾といつて、蕾の頃に行なつている人も現われております。

では、どのくらいの果実を残したら適當かということになります。

一般に一つの果実が十分に成熟するに必要な葉の枚数というものが、いろいろの調査の結果判つてきました。例えば、第三表のごとく、リンゴ（国光）では、一果当りの葉数が多いほど果実は肥大しております。他の種類について見ると第四表の通りです。大体一つの果実に対して、最低葉の枚数は次のように言われております。

- リンゴ 三〇〜四〇枚
- 洋梨 二〇〜三〇枚
- 和梨 三〇〜四〇枚

第二表 長十郎の果実の肥大と

摘果時期の關係

摘果時期	平均果重 g	同 比 %
五月一〇日	四二七	一〇六
五月二〇日	四二二	一〇四
五月三〇日	四〇四	一〇〇

第三表 リンゴにおける摘果時期及び強度に関する調査（青森リンゴ試）

摘果時期	果 重 g	
	一果当り葉一果当り葉一果当り葉	一果当り葉一果当り葉一果当り葉
落花後一〇日	一五六	一五八
同 二〇日	一四五	一六一
同 四〇日	一三七	一三九
		一七〇
		一七八
		一五五

桃 一五〜二〇枚

しかし、摘果の強さは一律でなく、樹勢に大いに関係しており、元気の良い結果樹では、若干多目に結実させても支障はありませんが、衰弱気味な樹では、できるだけ間引くことが肝心です。

大体リンゴでは、普通、二〇枚毎に一個と言われておりますが、樹の状態や結果枝の栄養状態等により考慮して下さい。

どのような果実を残すかということも、皆様すでにご承知と存じますが、一つの花房に数個の果実が成っておりますが、原則として、一果叢一個です。病虫害の被害の無い、果型の正しい、発育の良いものを残します。またリンゴの紅玉のように二年枝の腋花芽に着生した果実は、原則として全部摘果しますが、とくに成りの少ない年は若干残しても良いでしょう。またリンゴの開花順位は、中心から外側に向つて始まりますが、余り開花順位にこだわることはありません。梨の場合は外側から開花が始まりますが、この場合、二番果を残すようにして下さい。この外、結果枝の基部や直上部に着生した果実はできるだけ摘果するよ

第四表 果実の葉面積と果実の生長（里上氏）

（一果当りの葉の枚数一〇枚を二〇〇）
とした場合の果実の生長度数

種類	品 種	葉 の 枚 数	
		一果当り	二果当り
リンゴ	デリシヤス	一〇〇	一七二
同	紅 玉	一〇〇	一四一
同	長 十 郎	一〇〇	一三九
和 梨	離核水蜜	一〇〇	一四〇
桃	富 有	一〇〇	一四一
ブドウ	富 有	一〇〇	一四一

うにして下さい。

以上、摘果作業の概略を述べましたが、大変もったいないようでも、大切な作業の一つです。

次に最近、人工授精のことが大変やかましく言われてまいり、すでにリンゴにおいて相当実施されておりますので、その概略をご紹介します。

花粉の準備

品種としては、いわゆる、三倍体品種のステイマン、陸奥、生娘、緋之衣等を除いた栽培品種ならどれでも良く、その目的とする受粉品種より二〜三日早く開花する品種の花を採取します。とくに、デリシヤスは一葯中の花粉の数も多く、発芽率も良いので授粉用としては大変優れております。

花の発育程度は、風船状にふくらんだ頃から開花直後が最適で、採取した花は、五〜六日の金網にこすりつけて薬を落とし、更に二・五ミリの篩をかけて、花びら等を除去します。次に花粉を出させるには、薬を乾燥状態におくことで、大体温度は二〇〜二五度、湿度は八〇％以下に保つことで、余り狭い所に沢山入れるとむれて使用不能になります。簡単な方法としては、リンゴ函の底に新聞紙を入れ、一、〇〇〇〜四、〇〇〇花くらいを敷きつ

大体失敗することなく花粉が得られます。良い花粉は葯の反転が良く純黄色です。次に花粉を澱粉や脱脂粉乳等で約四倍に稀釈して使用します。また石松子も多く用いられております。

授粉作業は、開花後、できるだけ早目に行ないます。とくにモニリヤ病の多い時は、開花後二日目までに終らせることが肝心です。授粉用具としては、筆、綿棒などを用いますが、一回花粉をつけたもので、大体五〜十花授精できます。天候の悪い時、訪花昆虫の少ない時はやや多量用います。採取した花粉は直ちに使用するのが良く、都合悪くて貯蔵しなければいけない時は、湿気を吸収させないようにして、ガラス瓶に入れ密閉しておきますと、二〜三週間間は使用できます。

果樹の作業は一年中一貫して行なわれて始めて秋の収穫が得られます。翌年の収穫も本年の管理如何によりますので、十分注意して管理いたしましょう。

（雪印種苗 営業部）

